アジア競技大会派遣選手団

団　長　市原則之　強化担当常務理事

〔男子〕

役職	氏名	生年月日	所属
監督	津川　昭	1951. 8. 3	湧永製薬
コーチ	蒲生晴明	1954. 4. 5	大同特殊鋼
コーチ	喜井美雄	1951. 8. 8	本田技研鈴鹿
ドクター	敦賀一郎		浜脇病院

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G・K	1	矢内　浩	1960. 8. 1	189cm	85kg	大崎電気工業
	12	橋本行弘	1965. 9.17	185	80	本田技研鈴鹿
	16	秋吉哲男	1965. 7.27	190	85	大同特殊鋼
F・P	2	田口　隆	1961. 7.23	182	78	本田技研鈴鹿
	3	玉村健次	1961. 1.16	182	77	湧永製薬
	4	宮下和広	1961. 8. 6	187	85	大崎電気工業
	5	武田英雄	1963. 7.14	177	73	大崎電気工業
	6	酒巻清治	1962. 5. 7	180	78	湧永製薬
	7	河原隆雅	1964. 1. 3	180	76	湧永製薬
	8	甲斐章義	1966. 4.22	183	71	大崎電気工業
	9	山村敏之	1964. 7. 9	177	70	大崎電気工業
	10	首藤信一	1965. 1.10	186	85	大崎電気工業
	11	斉藤慎太郎	1965. 8. 3	188	78	山形教員
	13	魚住和彦	1966.10.24	188	75	大崎電気工業
	14	武田大伸	1964. 3.24	182	76	日新製鋼
	15	中山　剛	1969. 7. 4	191	75	福岡大学

〔女子〕

役職	氏名	生年月日	所属
監督	緒方嗣雄	1946.11.19	大和銀行
コーチ	水上　一	1947. 1. 1	筑波大学

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G・K	増見美果	1966.12.21	170cm	63kg	大和銀行
	村山みどり	1969. 1. 9	176	67	東京女子体育大
	小松崎浩子	1969. 9.22	180	63	日本体育大学
F・P	梅原直美	1965. 7. 4	182	72	大崎電気工業
	丸田紀子	1965. 9.12	171	62	大和銀行
	松沢祐子	1966. 5. 5	160	56	シャトレーゼ
	上村多恵子	1966.11. 7	158	58	大和銀行
	袰川亜由美	1966.12.25	173	67	大和銀行
	武津優子	1967. 9.19	171	59	オムロン
	小池美由紀	1967.11. 7	164	58	大和銀行
	市来未央	1968. 1. 3	159	67	日立栃木
	松田史佳	1968. 5.14	161	56	北国銀行
	小松晃子	1969. 9.11	177	67	シャトレーゼ
	比嘉晴美	1969. 9.12	162	51	オムロン
	竹吉由江	1970. 3. 6	164	57	日本体育大学
	西村聖子	1970.10.14	174	67	武庫川女子大

レフェリーの観察と判定における欠点についてVIDEO解説

ヴェルナー・フイック（西ドイツ）ＩＨＦ／ＰＲＣ理事
ウイリー・ハックル（西ドイツ）西ドイツ審判部長

正直に申し上げて、私としては、このシンポジウムへの表題のテーマに関しては、まだ十分な確定結論を出す段階ではないと思っている。

とりあえず、私の意図するところは、1月に行なわれたバルティクカップ大会と2月の男子B世界選手権大会で、それぞれ問題となった出来事を含めた上での、レフェリー活動分析の中から、「ゴールエリア前でのプレー」という題目で述べることである。

観察と判定の場にあるレフェリーの赤裸々な実態を明かにすることは、まだ理論学習の定型を成していないので、そのかわりに、視覚に訴える身近な実例を示すこととした。

我々としては、この観察法が最も啓発されるところが多いと考える。このビデオフィルムの発表進行について、一定のテーマの場面を各2回づつ通常スピードで映写して、その実際状況の把握についての時間を設けた。その後、その経過について、音声での説明とともにスローモーション映写により検分し、そしてまた、普通スピードの状況を再検分するということにした。カメラ操作都合の許す範囲で、希望に合った状況をキャッチするため、早め早めに個々の場面を録画した。

解説やヒントの示唆については、次の点を留意した。

①　どちらのチームがボール保持で、攻撃側なのか→ユニフォームの色

②　どのプレーヤーが行動しているのか→番号・ポジション別

③　そのテーマに相当する事実状況

どうしてそうなったか。何を特に注意して見るべきか

④　その後に続く、他のテーマとも関わり合いのある反則行動

⑤　レフェリーの判定

⑥　正しい判定は、どのようにあるべきか

この発表型式によっても、これらの実例場面が、常に最良の角度から写されたものでないことは了承願いたい。

このシリーズは、引用例としてあげられた国や、チームや、プレーヤー、そして問題ありと感ずるレフェリー諸氏も見ることができる。

これらの選別されて教育資料となったことで、個人的にも、チーム的にも、今後、色目で見るようなことは全くないし、このような仮定的思考は、我々の意図と全く相反するものである。我々は、この典型的な実例集を再現することで、レフェリーの改善向上の教育参考資料として役立つことを望んでいる。現時点では残念ながらこの方法以外に本物実際同様の再現は不可能である。そしてこの映写にあたっては、ドイツ語国民以外の諸氏は通訳を介して眼で追うようにしてもらうよう理解を願いたい。限られた短い準備期間で仕事を急いだため印刷物として翻訳をつけるまでにはいたらなかったことをおわびするが、後日資料的に補完充実し、問題点の追加という形で各場面の解説翻訳が作られることになろう。

この後、我々が収録選別した問題点のダイジェスト版を発表する。

(1)　シュートする時のゴールエリア内侵入について（踏み越すこと）

この第一テーマは重要である。ゴールエリアラインを踏み越しての得点は、ルールに認められていない。レフェリーのゴールエリア観察不注意は、その後彼自身に大きな負担となってのしかかってくることとなる。この種のミスジャッジは試合の大勢に大きく影響する。そして今も尚、頻々として発生しており、我々は、この件を真に好ましくない無責任・軽率な妥協の産物であると反省している。なるほど、これまで我々はこのような判定態度で、明らかに、ある時は受難者となり、ある時は受益者となっていたのである。いずれ、このような事態は均一化されるようになると人はいうかも知れない。だからといって、我々は何もしなくても良いとは思っていない。ここでは多くの試合から、相対関係の統計的誤差率を抽き出すことはしない。ある特定の一試合だけが分析・評価され、批評・考察の対象となっている。

どんな時点でも、またはどんな試合状況下でも、私が思うには、プレーヤーやチームは誠に不運・災難である（レフェリーのミスジャッジにより）ことが決定的要素となって現れている。2～3点の少差の試合では、この影響が特に大きいことを教えている。

誰でもこのような場合、チームのモラル感覚はどこかへやってしまうであろうし、またこれが決定的重要性を持つ試合であれば、モラル感などかまっておれなくなってしまうことに気づくであろう。

この見地から我々は、問題あるレフェリーの教育訓練に関して委託された任務の重要性を意識せざるを得ない。

私の観察経験では、ゴールエリア周辺での出来事についてのレフェリーの観察はまったくのところ、どちらに優先性を与えるかの判定基準がすべて間違って理解されていることを示している。彼らは、特にゴールレフェリーをつとめるレフェリーはややもするとゴールインを見逃す、確認し損なうかも知れぬという不安危惧の念を抱いているものと我々は見ている。彼らはシューターを瞬時の速さで注目し、そしてなお、急速にゴールを見るため視線を切り替えなければならない。

（注）このことについての理論的学習は、アルベル

ト・バルクハウゼン著の「審判教育2」かまたは「ハンドボールトレーニング誌」のNo10—88に掲載されている。

ルール18—7dによってゴールレフェリーは、得点認定の時笛を吹くと定められているが、これは一〇〇%にわたって自分自身で確認するべしと絶対必要視されているわけではない。ここで、ペアレフェリーとの協同補完が問題となる。すなわち、センターレフェリーは、彼を助ける意味でサインを送るようにしてやれば良い。

(2) シュートの際のゴールエリア内侵入（踏み越し）についてのVIDEO解説

第1例：好適の例である。攻撃は白で画面の左側方にいる。ゴールエリアラインを踏まずにジャンプシュートのため跳び上がり、着地する前にタイミング良くボールをシュートした。

第2例：攻撃側は白でコートの左半分側の後方の位置からシュートした。跳ね返ってきたボールがゴールエリア上に転がっている。白はそれを取ってシュートしたがラインクロス状態であり、これは得点とは認められなかった。

第3例：攻撃側は白で中央左寄りの5がシュートしたがラインクロスである。レフェリーはラインクロスを認めなかった。これも不正な得点である。

第4例：攻撃側は白（中央左寄り）。再びラインクロスで不正に得点した。防御側はそれ以前にボール保持者にマークするためゴールエリア内に入っている。正しい判定は7mスローである。

第5例：攻撃側は青（右側方寄り）。シュートが2度続けざまに行なわれた。

第1回目、問題ない着地である。レフェリーは青の反則を取ったが、ここでは、防御側がボール保持者にマークするためゴールエリア内に入っていたので7mスローとすべきである。

第2回目ラインクロスである。足を床に引き摺っている。レフェリーはゴールインとした。これも不正なゴールインを認めている。

第6例：攻撃は白7（左利き）が中に割って入り、右腕を突き出してチャージングをした。レフェリーはこれを罰していない。その後左横へパスをしてゴールエリア内に入ってしまったのにレフェリーはゴールインとした（スローモーションで見ると一層はっきりわかる）。ゴールレフェリーが早くボールに視線を移したからである。

第7例：攻撃側はオレンジ。右外側からシュートしたがラインクロスをしていた。レフェリーは近くにいながらボールだけ見ててゴールエリアラインを見ていない。またしても反則による得点である。

第8例：攻撃側は白。右外側からのシュートで、ボールが手から離れる前に着地してしまっている。これはレフェリーが見つけたので得点にならなかった。

以上の諸例を見た後の結論としては、遺憾ながら至って良くない。カメラの展望は、我々がテーマとするゴールエリア観察の重要性を認めている。

今回のゴールエリア観察でも、すでに5つのミスジャッジがあり、4点が認められているし、ただ1試合で10回ものゴールエリア内での不正シュートが約8回のゴールインとなってしまっているのである。

今まで述べたように、これを除くことこそ緊急の課題としなければならない。この件に関して、レフェリーの責任は重大なものがあることを重ねて指摘するとともに、瞬間的に起こる状況変化観察の改善を図るようにしなければならない。

(1) シュートの時ボールを手から離す前にゴールエリア上に着地すること

前項の終りに示したシーンは、上記のテーマと共通性がある。これは、ジャンプシュートをするために、ゴールエリア上を跳び上がる時のことである。

一方では、レフェリーの観察範囲内容の多様さは増大するとともに、他方では、瞬間的な、一秒以内ともいえる眼の動きで判定を下さなければならなくなりつつある。

この状況に最も当てはまるゴールレフェリーにとっては、解決処理不能に近い負担となっている。彼の立つ位置から、上に述べたような十分の一秒での正確な観察は、ゴールエリアラインとゴールポストの距離関係から見て不可能である。

手→ボール、そして足→フロアに着いてからかそうでないかの動き、経過を同時に視野の中にとらえなければならないからである。この状況のもとで、正しい判定を下す好位置など、とても無理であり、不可能に近いといえる。

こんな時レフェリーは、できれば後方に少し下がって、もっと周囲を広く視野の中に入れるようにしても良い。しかしながら、このためにはセンターレフェリーの協力が必要である。彼らは、その位置からボールが着地前に離れたかどうかを見るのに十分といえる距離点にいるから、より良い観察が可能なはずである。

ただし、そのとき眼前を通り過ぎるプレーヤーがあれば、その限りではなくなるが、これもセンターレフェリーが、リズミカルで、絶え間なく位置を変える動きで全体を包括的に見渡すことができれば、この解決は容易となろう。スローモーション映写ですら、ゴールエリア上着地について、正しい判定を下すのに証明とはならない場合が多々ある。以上の事柄が、隔たった位置からの観察を余儀なくされるため、異なった判定が生じる原因となっている。

テレビとかビデオの通常速度の映写または観覧席からの眼では、往々にしてゴールエリア着地後のシュートが反動的挑発作用（連鎖反応）となって、リズミカルであるべき試合の流れをこわしてしまうことが多い。だから、レフェリーがこの試合の美しさとその流れの円滑さを見極める眼力の鋭敏さを養うのは当然のことである。重ねて強調するが、レフェリーはゴールエリア上にジャンプシュートがある時は、全体を見るようにすべきである。

○ジャンプシュートに踏み切る前
防御側がゴールエリアを横切るか、その前に立ち止まるか
ボールを目標にしてか、または相手の身体をブロックしようとしてか
攻撃側は、オーバステップ、オーバータイム、チャージングをしていないか

○ジャンプシュートに踏み切る時
ラインクロスしたかどうかに注目する
防御側も続いてジャンプすれば、その時の目標・対象はボールか相手か、ボールを空間でス

トップしたり、手で払い落とすプレーはOK。他のすべての身体接触は、例外なく反則であり7mスローとなる。そして段階的罰則適用反則には、それを忘れずに追加すること。

〇ボールが手から離れたか、ゴールエリア着地が早やかったか

　すべての観察の中で、これが最も難しいことはすでに述べた通りである

〇得点判定について

　これの見損ないは、レフェリーの最大のエラーであり、両レフェリーともボールの行方に眼を向けるのが早過ぎる

〇その他の観察では

　シュート動作の開始発端が、合法か否かを見るべきであり、さもなくば、逆に7mスローを抽き出すことになりかねない。

　シュートする方向角度が広がれば（中央に寄ってくるほど）、おおむねは得点チャンスであるこの連続動作状態で、ジャンプシュートのため、ゴールエリア上に飛び込む時、時間的速さで、すべての始末を正しく見て判定を下すことが、レフェリーにとって、いかに困難かを認識すべきである。1982年の男子A世界選手権大会での5つのシーンで、当時でも問題視された困難点に関することを、このテーマの序論として、我々一同で、もう一度検証しよう。

(2) シュートの時ボールを手から離す前にゴールエリア上に着地すること〔解説〕

　第1例：これもエリア観察の適当例である。シューターは、着地する前にボールを離している。

　第2例：攻撃側はオレンジ、エリアラインの中央左寄りにいる。ボールを手ばなす前にエリア内に入ってしまっている。レフェリーは得点とした。正しい判定は、防御側にフリースローである。

　第3例：攻撃側は白。15が左外側にいる。15は明らかにボールを離す前にエリア内に入っている。レフェリーは、ラインクロスと認めた。

　第4例：攻撃側は白。中央右寄りにいる。白シューター10がエリアライン前から、左足でスキップしてエリア内に入って左足軸でシュートした。スローモーションでは、前に立っているレフェリーの右に左足が出ているように見える。レフェリーは得点とした。正しい判定は、シューターの前に防御側プレーヤーがエリア内にいたから7mスローとなる。

　第5例：赤の速攻の場合。右外側から攻撃側がパスを受けるため、エリア上にジャンプしてキャッチした。レフェリーは得点と判断したのは正しい。相手プレーヤーは異議申し立ての権利はない。

　第6例：攻撃側は白。エリア前のプレーヤー18がエリアラインに沿って走り、中央右寄りで踏み切ってパスした。パスのための踏み切りは問題ないが、ボールを手離す前にエリア上に着地している。このような時には、前に述べた反動挑発作用（連鎖反応）に注目すべきである。レフェリーは得点を認めたが不当である。

　第7例：攻撃は白。速攻状態である。右外側の14がジャンプシュートしたが、これは着地後である。これは空間でねばろうとするシュートを見極めることである。これも連鎖反応を考えた上で遠くからでも正確に見るべきである。レフェリーの判定は正しい。

　第8例：攻撃は白。9がボール保持でオーバーステップした後、左外側からエリアラインを踏んでジャンプした8にパスしたが8は着地後シュートした。レフェリーはこの3つの反則を見逃した上得点を認めてしまった。

まとめと結論

　我々は、今までハンドボールの観察と判定について、最も困難とされ、しかも、再三再四、矛盾異論を招いている場面を典型的な実例で見て来た。我々としても、観察判定対象の追求手段方法について、いろいろな疑念が生じていると考える。それらの疑問点を列挙し、検証することで、レフェリーが正確なチームワークにより解決打開策を抽き出すよう助力してやろうではないか。

(3) 無責任な防御行動について

　我々IHF／PRCは、以下にあげるテーマ群については、特に入念な注意力をはたらかせることを望んでいる。はじめに、私は、プレーヤーが日進月歩的にプロフェッショナルな進歩を遂げていることを話した。このことの成り行で必然的かも知れないが、相手に対して遠慮会釈のない、あるいは傍若無人の戦術行動が見られるようになって来ている。伝統的に美点であるフェアプレーはさらに退行の彼方にある。

　数年前から、にくたらしいともいえる防御行動が見られるようになって来たのは、そう驚くことではなくなっている。相手の安全には仮借のないやり方としては、攻撃側がジャンプシュートをする時の自己本位な行動様式にも現れている。この後に続くのは、四肢を掴む、引っ張るなどの行為である。この結果、シューターはパスを受けるためのバランスコントロールを失ってしまう。この後は、頭部負傷危険率の高い転倒となるであろう。

　レフェリーや観衆は、このような試合状況の中から、まるで予想しない事態が起こるとは全然考えてはいない。それは、彼らがボールとプレーヤーの上体部分しか見ていないからである。シューター

の異例非常な転倒が生起した時、はじめて彼らに事の重大性を考えさせることになるのである。5試合の中から、この種の例を6件選んである。

結　論

我々IHF／PRCは、このようなフェアプレーの精神に反する無責任なプレー・行為を抑制・排除する努力を払うが、全員の支持を願ってやまない。この抑制が普通のハンドボール行動意識であると、全レフェリーが信念確信を持つようになれば、粗暴で非スポーツ的行為への対処と判定は容易なものであり、もちろん一発で失格処分することが可能である。

第2例、第3例に示すようなこと、または意図的であろうとなかろうと、またそれらが短時間・瞬間的に起こったことでも、エネルギッシュに非妥協の態度で初回の反則の処理に立ち向かい、2分退場を科すことが当然である。乱暴行為のごときを、我々ハンドボールマンは決して許さないようにしようではないか!

(3)　無責任な防御行為について解説

第1例・スローオフは赤。後方から攻め込むプレーヤーはパスをする時、白7にチャージングをしている。これは罰せられていない。左外側でボールを得てフリーシュートした。防御側14はマークしようとしたが、遅れたのでちょうど飛び込もうとする相手の足を掴んだ。シューターはバランスを失って横ざまに転倒した。レフェリーの処置が見られず、正しい判定は7mスローと、レッドカードによる失格である。

第2例・攻撃は青。青10は左外側からフリースローをする。防御側14はマークするのが遅れたので、エリア内に飛び込み、シューターの左足を引っぱるか、掴むかした。青10はそれでも得点に成功した。粗暴で非スポーツ的行為はプレーの終りで見届ける必要はない。意図的であることがはっきりしているから、直ちに2分退場を科すべきである。

第3例・白チームGKはシュートを止めた。赤の5は赤10に速攻スタートさせた。防御側の10が追いつけず、赤10がジャンプシュートする時の右大腿をポンと押した。短くて速い動作である。レフェリは7mスローとアンフェアプレーヤーに2分退場を科した。大変良い判定である。

第4例・攻撃はオレンジ。エリア前の中央右プレーヤー。防御側の5はオレンジ3の大腿部を押したので3はバランスを崩した。レフェリーはシュートのゴールインを認め（アドヴァンテージOK）、その前にあったのかも知れない反則で白7に警告した。白5はアンフェアなのに罰せられていない。これはレフェリーの観察が不適切だったといえる。

第5例・攻撃は白。白2が右から走り込む。防御、赤4が中央にいるが何を考えたのか、防御意図目的とは無関係に右手で白2の右足を持ち上げ、頭からひっくりかえす危険なことをした。プレーヤーは転倒するのに腕でカバーすることにも馴れていないのに、頭から落ちて怪我することにも馴れているはずはない。レフェリーは警告しただけ。正しくは失格処分!

第6例・攻撃は赤。中央左寄り後方から走って来たプレーヤーがジャンプシュートをしようとしている。白14が相手の右足を掴んで引っ張った。レフェリーはこれに気づかず試合はそのまま続く。反則されたプレーヤーはバランスを崩してシュートできなかったため、レフェリーに公正対等を訴えたので自陣に戻るのが遅れ、逆襲による失点に甘んじなければならなかった。正しい判定は白14を失格として、7mスローを赤に与える。シュートの時バランスを崩したこと、エリア内防御をしたことによる。

第7例・終りに、もう一つ教育資料相当の場面を示す。白のシューターがどこで反則されたとしても、バランスが崩されたと見るべきである。

(4)　段階的罰則適用について

我々全員は、レフェリーの養成と高等教育実施に向かって、このテーマに取り組んでいる。1960年代の終り頃には、すでに粗暴でフェアプレー精神の理念を抑圧・無視する行状について取り決めるべきであった。ジワジワとではあるが、スポーツのあり方に危険が迫ってくる悪い兆候は、今なら誰でも知っている挑発から生じた不規則の積み重ねとなっている。我々のハンドボールのアンフェアな展開状態に歯止めをかけるため、IHFが1981年版ルール改訂に着手したのは、あれから10年もなってからのことである。この改訂の特別意義は、主として包括的に個人を対象とする罰則適用の再検討であった。この結果、相手に対する動作での違反は段階加重的に罰することが明らかになったのである。

そしてなんと、その準備には若干の困難はあったものの、プレーヤーやチームの急速な学習修得能力にはおどろかされた次第である。我々は、好ましくない事態の推移にストップをかける第一段がうまく行ったことに満足している。

このような経緯にもかかわらず、その次の部分的ルール改正周期年（4年後という意味）には、またもやレフェリーの罰則処理にいかがわしさが見られるようになっている。

そこで、1985年版ルールには、明確な定義とその限界判定に役立つように内容明細にわたっての説明注釈が併記されることになった。その後、ようやく一般的にはレフェリー活動は、我々の観念と適合するようになった。今回再び巡り来た、ルール改正周期年の終りに当たって、我々は多くの試合観察で罰則適用がいい加減なものになりつつあることを確認している。

なぜ、反省・回顧を過去の彼方にやってしまうのか?（役立てようとしないのか）、私は声を大にして、「一貫性あるルール解釈の重要性をレフェリーに確実に理解させ、実行させる努力を怠るなかれ」と全審判長に警告を発したい心境である。

レフェリー諸氏は、要するに我々PRCから示された吹笛基準を維持し強化すべきである。そして、次の来るべき吹笛チャンスの場では、レフェリーが必要・適切な段階的罰則相当の違反には、終始一貫性ある、断乎たる処置を取る勇気を示すことを、期待してやまない。

次に罰則適用が、全く実行されていない事例を示すことにする。実例場面の発表により、それぞれの実状に応じた判定を下して、皆さんと共通理解の線に達着することは我々PRCの努力目標である。同様の努力は、IHF／PRCと

その時々のレフェリーが関与する講習会や世界選手権大会にも常に振り向けられている。

我々は、友達の判定でチームサイドが持つであろうさまざまないらだちの念を回避するための最大限合意を達成することが、最重要条件であると考えている。この目標に向けて、次の発表を役立たせることにしよう。

第1例：はじめに再びレフェリーにとって好適の例を示す。

攻撃は白。4が中央左寄りにいるが、相手の7から両腕で掴まえられた。レフェリーは7に2分退場を科した。これはOKである。これは青チームの無茶である

第2例：攻撃は白で右の方へフリースローをパスした。中央後方にいるプレーヤーはシュートしようとしたが突きとばされた。レフェリーはただのフリースローだけ与えた。段階適にということを忘れている。

第3例：攻撃は白。中央から左外側へボールが送られ2にわたった。青15の後方に白15がブロックをかけた。この時白15を左腕で押し倒し、そしてまた白2にも反則をしようとする。レフェリーは何も判定しない。段階的適用を忘れている。

第4例：攻撃は青。5が左から白14と3の間を右へクロスしようとしている。白14は両腕で相手を突きとばした。レフェリーはフリースローで済ませた。正しくは白14に段階的適用をすること。

第5例：攻撃は青。中央後方のプレーヤーがボールを持っているが、白チームは減数状態の時白4からマークされて、空間でパスプレー中に突きとばされた。レフェリーはフリースローの判定だけ。段階罰が忘れられている。

＊減数状態とは、退場者のある状態または相手よりも人数が少なくなっている状態をいう。

第6例：攻撃は青。ボールはフリースローで右にいる青10にわたった。白8はマークに行くのが遅れて左利きシューターの胸あたりを突いたので、青10はバランスを崩してしまった。笛も吹かれず、試合は続けられている。何らかのフリースロー判定の笛と段階罰が忘れられている。

第7例：攻撃は白。右外側にいるプレーヤーが内側に走り込んで青5の後に来た。青5は相手が白2にパスする時、飛びかかって突きとばした。白2もジャンプ中に青5から突かれた。白8へのパスがエリアライン前に来たので白8は得点成功した。青5に段階罰を加えること。

第8例：攻撃は青。右外側の7がボールを持って走り込むがゴールエリア内を走って来た白14に突きとばされながら青6へパスして得点となった。アドヴァンテージOK。段階罰が欠けている。

第9例：攻撃は白。4が右外側の7にパスをした。7はそのまま青13の方へ横に動く。そこで青13は短いモーションながら、両手で押して素早く手を引っ込めた。左足はエリア内にあるが、その反則後素早くエリア外に引っ込めた。そこでレフェリーは、はじめてこのプレーヤーの動作に気づいたが、彼は反則を悔いたという良心的動作と見たのかも知れない。点が入ったか否かは正しく見るべきであり、シューターはエリア内に入っていなかった。青13に対する段階罰が欠けている。

第10例：攻撃は赤。中央右寄りにいる。白3はユニフォームを掴んで、その上腕で掴まえている。左の腕は、上に伸ばして何もしていないと見せている。レフェリーはフリースローとしたが、段階罰とすべきである。

第11例：攻撃はオレンジ。後方右寄りにいるプレーヤーが斜めに走り込んで来る。防御青3は両腕で相手を掴まえた。レフェリーはフリースローしか与えていないが、これは無条件に段階罰とすべきである。

第12例：攻撃は白。赤は減数状態にあり、劣勢の中で何とかシュートを止めようとする。赤は右外側の味方プレーヤーを助けるためにか、ボールに向かってセービングした。そしてエリア前にいる相手にのしかかってしまった。そして走ってくる白10を押した。連続的に起こった反則は2人の攻撃プレーヤーを阻止した上、後から攻め込んでくる者にも影響した。2分退場は当然である。

第13例：攻撃は白。15がボールを持って左から右へ動いている。エリア前で青6は白11を押した。段階適用なしである。その後青15はボール保持の白8がジャンプしているところを押した。レフェリーはフリースローだけしかとらない。正しくは、青チームの2度にわたる段階罰相当の違反を罰するべきである。

第14例：攻撃はオレンジ。青18が相手の右に立っている。斜めのパスが後方にいるプレーヤーに渡った後、青18はエリア内を通って反対側へ回り込み両腕で相手を掴まえた。笛は吹かれたが、レフェリーは腕使用については過失なしとしてフリースローとした。明らかに段階適用すべきである。

第15例：攻撃は青。青3が白10の後ろから押した。レフェリーは気づかない。白10は押されたので、ボール保持者の青9に突き当たり、右手が相手の顔面に当たった。青9はそれでもエリア前に突っ込もうとする。白11と15はこれを阻もうとしたが白11は肘を青9の顔面に当ててしまった。フリースローだけとは軽過ぎる。段階適用が続くべきである。

白10のはじめの違反は、顔に当たったことは攻撃的意図的でなかったが、2回目の白11の違反は失格に近いものである。

第16例：攻撃は青。5がボールを持って走り込み白18から押された。ボールは思う相手にパスできず5は後方右に止まった状態である。これは、すでにアドヴァンテージ状態ではなく、白18の反則を罰するべきである。

右から後方右へ走り込んで白5からボールなしで2回押された。青3は防御シフト内に入っている。白18は青3から数m離れている。反対側から白5がフォローした。両者の力が一緒になって青3は転倒した。レフェリー判定はただのフリースローだけ。白18に対しては段階罰を与えなければならない。

第17例：攻撃は青。中央左の17がつかまえられ押し倒された。レフェリーはフリースローだけしか吹いていない。正しくは段階罰である。笛が吹かれると同時に白14は青4の頭を叩いた。これはもはや段階罰適用の対象でなく、即座に退場か失格である。

第18例：白2の逆速攻で、防御赤プレーヤーがジャンプしようとしているシューターを突き倒した。退場でも、失格でも良い。

フリースローの時、ボールは左から戻されて後方右寄りプレーヤーにある。彼はジャンプしたのちに空間で押しとばされた。ここにも段階罰適用が欠けている。少し遅

れて赤2に対して、走り込んで来た白10をホールディングしたことで段階適用をした。

第19例：攻撃は青。中央からジャンプシュートで得点。その時ボールには間に合わないのに白14は青14を突きとばした。同時に白15はボールを持たない青13を突いた。得点は認められたが、段階適用が欠けている。

第20例：攻撃は青。フリースローの後、白15が青3に近づいて左手で相手の胸を叩いたが、その後引っ張られて青3からホールディング（腕の差し込み）された。はじめの反則は防御側のもの。青チームに2分退場とフリースロー。白15については当然ではあるが、青3は腕の差し込みにより警告されて良い。

第21例：攻撃は白。中央左側にいるボール保持者は両腕で後からつかまれた。レフェリーは正しく段階適用すべきであるのにフリースローだけである。この結果、無意味なフリースロー判定により、試合の流れが中断しアドヴァンテージも無視された。その後白3からエリア前にパスが送られ、キャッチした攻撃側プレーヤーはつかまえられ、引っ張られた。白3もホールディングされた。レフェリーは得点チャンス妨害として7mスローを取っただけである。必ず段階罰適用に進むべきである。

第22例：攻撃は白。フリースローが左へパスされた。青5が白10を掴んだ。白10はパスした後、青15から突かれた。レフェリーはフリースローを取っただけ、段階適用しておらず。

第23例：攻撃はオレンジ。中央右プレーヤーはエリア前にいる。青18が反則をした。オレンジ3が報復的に叩き返した。レフェリーは青18を罰した。当然両プレーヤーも退場となるべきケースである。

第24例：攻撃は白。右外側にいるプレーヤーはオーバーステップしたが、気づかれない。白4は赤5と10の間に入ろうとして、そこで赤5が突きとばしたので、白4は赤5の上に倒れたため警告された。センターレフェリーは反則したプレーヤーを警告したつもりであろうが白4への警告は2回目であることを失念している。これも的はずれ判定である。

第25例：攻撃は赤。ボールは右外側の6にパスされたが、空間で白5に突きとばされバランスを失った。レフェリーの判定は正しい。白5に2分退場を命じ、得点チャンス妨害のため7mスローも加える。

結びの言葉

我々は皆さんに対し、残念ではあるが、必ずしも多いとはいえない問題テーマ群を示したが、これを基として今後の研修成果向上への激励としたい。レフェリーの実例に即した視聴覚学習は、今や養成コース、高等コースを問わず大きな役割を果たすに至っている。

常に、早いスピードで先行するトレーナー・プレーヤーサイドとレフェリーサイドを比較すると、今や両者の間には、理解やものわかりの程度や、基準に相違が生じてしまっている。

試合状況下で、相互に抵抗関係にある両チームは、ほとんどの場合レフェリーという存在を試合に欠くべからざる良い友達とは見ていない。ルールに合った判定については、何もレフェリーに尋ねることはない。

人は、常に判定を自チームに有利にするためレフェリーをあやつろうとしている。だから、今も尚、試合前・中・後を通じてあらゆる手段と搾術が応用されている。彼らの想像力または発明力の豊かさは、レフェリーをして誤判定を導き出すという点で絶大なものがある。これらは、靴紐を結び直す、フロアーをモップで拭く、負傷を装うとか、取るに足らぬ、きっかけから「タイムアウト」を引き出すことではじめられる。そしてなお、フリースローを誘発すること、意図的なスローのポジションの訂正誘発、そして芝居じみた搾難的プレーをするようになる。知っているくせに、知らぬふりをする、カマトトぶりと、その身ぶり手ぶりは、すでに演技パターンとなっている。ここでのレフェリーという存在は、戦術・策略的に端を発して、心理的圧迫を目論むチーム側の敵ということになってしまうのである。

このようなプレーヤー側の陰謀ともいえるたくらみを見抜いてそれに対抗するための必須条件は、個々のレフェリーの経験、自信、そして何にも負けることのない人格性に帰属することを確認ねがいたい。

我々はレフェリー諸氏が、今後このテーマで適切に、広範囲に準備・研修するよう努力を約束する。以上発表した視覚的実例は必ずや寄与貢献するものとなろう。

御静聴を謝す。

ヴェルナー・フィック（論説）
ウィリー・ハックル（解説）

各地の記録から…

東北

第40回青森県高校春季選手権
（5月12、13日／今別高校）

〈男子〉

▼1回戦
青森山田 18—15 十和田工
鰺ヶ沢 25—9 横浜分校
今別 19—11 三本木
青森 30—8 柏木農
青森南 21—18 五所川原
青森東 31—13 弘前南

▼2回戦
青森商 28—10 青森山田
今別 26—18 鰺ヶ沢
青森 22—16 青森南
青森東 23—22 野辺地

▼準決勝
青森商 26—12 今別
青森 34—14 青森東

▼決勝
青森商 29（15—9、14—10）19 青森

〈女子〉

▼1回戦
青森東 7—5 野辺地工

▼2回戦
青森西 35—0 青森東
今別 20—8 三本木
野辺地 39—7 青森商
青森中央 35—5 六ヶ所

▼準決勝
青森西 18—14 今別
青森中央 20—12 野辺地

▼決勝
青森西 17（10—10、7—5）15 青森中央

第39回宮城県高校総体
（6月2～4日／仙台高、宮城一女高、仙台南高）

〈男子〉

▼1回戦
古川 19—17 榴ヶ岡
仙台二 36—14 宮城水産

▼2回戦
古川工 27—14 佐沼
古川商 31—9 東北
宮城工 18—15 築館
仙台西 31—10 泉館山
仙台南 27—21 古川
仙台三 17—16 仙台一
仙台向山 30—17 仙台
仙台育英 23—16 仙台商
泉松陵 20—13 一迫商
名取北 20—18 宮城広瀬
工大電子 19—12 塩釜
仙台東 29—18 仙台二

▼3回戦
古川工 26—16 古川商
仙台西 22—19 宮城工
仙台南 25—16 仙台三
仙台育英 23—10 仙台向山
泉松陵 19—12 名取北
仙台東 33—12 工大電子

▼4回戦
古川工 26—11 仙台西
仙台育英 22—16 仙台南
仙台東 26—14 泉松陵

▼決勝リーグ
古川工 18—10 仙台育英
仙台東 20—14 仙台育英
古川工 25—16 仙台東
〔順位〕①古川工②仙台東③仙台育英

〈女子〉

▼1回戦
飯野川 16—15 佐沼
塩釜女 20—11 仙台東
涌谷 27—4 築館女
朴沢女 27—9 古川女
宮一女 49—3 泉館山
名取北 19—15 仙台西
宮城広瀬 15—12 泉松陵

▼2回戦
聖和 32—7 飯野川
宮二女 18—14 塩釜女
宮三女 18—14 涌谷
宮一女 19—17 朴沢女
仙台女商 32—9 名取北
古川商 29—4 宮城広瀬

▼3回戦
聖和 24—10 宮二女
宮一女 20—15 宮三女
古川商 24—7 仙台女商

▼決勝リーグ
聖和 22—12 宮一女
古川商 22—14 宮一女
聖和 31—9 古川商
〔順位〕①聖和学園②古川商③宮城一女

第43回青森県高校総体
（6月9～11日／野辺地高ほか）

〈男子〉

▼1回戦
三本木農 15—14 野辺地工

▼2回戦
青森商 57—6 三本木農
青森山田 24—8 七戸
柏木農 30—14 弘前南
青森東 18—4 五所川原
青森南 18—17 今別
三本木 30—9 横浜分校
野辺地 44—18 鰺ヶ沢
青森 28—13 十和田工

▼3回戦
青森商 36—8 青森山田
青森東 35—14 柏木農
三本木 18—16 青森南
野辺地 30—12 青森

▼準決勝
青森商 45—14 青森東
野辺地 43—10 三本木

▼決勝
青森商 29（14—12、15—12）24 野辺地

〈女子〉

▼1回戦
青森東 7—2 七戸
三本木 23—11 野辺地工

▼2回戦

青森西 36－3 青森東
野辺地 28－6 青森商
今別 27－7 六ヶ所
青森中央 35－5 三本木
▼準決勝
青森西 15－14 野辺地
青森中央 23－12 今別
▼決勝
青森中央 18（7－5、11－8）13 青森西

関東

千葉県実業団春季リーグ戦

（2月14、15、22日／三井石油体育館）

▼1部リーグ
コスモ石油 棄権 東京ガス
出光千葉 31－17 三井石化
海自下総 棄権 東京ガス
三井石化 36－14 日産石化
出光千葉 棄権 東京ガス
コスモ石油 30－18 日産石化
海自下総 21－18 三井石化
日産石化 棄権 東京ガス
海自下総 23－18 出光千葉
三井石化 20－18 コスモ石油
三井石化 棄権 東京ガス
コスモ石油 25－21 出光千葉
海自下総 30－11 日産石化
出光千葉 31－14 日産石化
海自下総 32－23 コスモ石油
〔順位〕①海自下総②出光千葉③三井石化④コスモ石油⑤日産石化⑥東京ガス

▼2部リーグ
海自館山 22－14 東京電力
海自館山 棄権 海自木補
東京電力 24－21 海自木補
〔順位〕①海自館山②東京電力③海自木補

▼入れ替え戦
海自館山 棄権 東京ガス

埼玉県高校関東大会2次予選

（4月28～5月月13日／草加市スポーツ健康都市記念体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
浦和学院 15－13 浦和西
県坂戸 18－13 春日部東
小松原 18－9 熊谷
川口青陵 23－17 庄和
浦和南 29－14 筑波大坂戸
羽生第一 27－7 秩父
春日部工 24－13 城西川越
大宮南 23－12 城北埼玉
越谷南 25－23 春日部
春日部共栄 22－19 西武台
埼玉栄 25－12 上尾東
農大三 26－16 川口東
川口工 22－9 桶川
越谷西 24－23 吹上
浦和実 35－11 大井

▼2回戦
浦和学院 29－9 県坂戸
川口青陵 29－21 小松原
川口北 22－17 春日部工
大宮南 24－7 越谷南
埼玉栄 21－12 春日部共栄
農大三 18－10 川口工
浦和実 40－4 越谷西

▼準決勝リーグA組
浦和学院 18－15 川口青陵
浦和学院 30－6 浦和南
浦和学院 12－12 川口北
川口北 23－6 浦和南
川口北 21－14 川口青陵
川口青陵 15－15 浦和南

▼準決勝リーグB組
浦和実 20－15 農大三
浦和実 25－7 埼玉栄
浦和実 23－11 大宮南
大宮南 18－14 埼玉栄
大宮南 18－14 農大三
埼玉栄 14－13 農大三

▼決勝リーグ
浦和実 14－11 川口北
浦和実 16－13 浦和学院
浦和学院 15－9 大宮南
川口北 15－12 大宮南
※浦和実－大宮南、浦和学院－川口北は準決勝リーグを適用。
〔順位〕①浦和実②浦和学院③川口北④大宮南

〈女子〉
▼1回戦
浦和実 12－0 深谷一
羽生一 18－9 本庄女
八潮 30－7 浦和市立
三郷北 23－10 庄和
小松原女 21－14 越谷南
大宮南 19－16 春日部東
八潮南 15－9 所沢北
川口北 20－15 川口女
伊奈学園 24－11 宮代
熊谷女 25－3 浦和商
春日部女 23－11 行田女
上尾東 23－16 朝霞
浦和南 20－11 筑波大坂戸
埼玉栄 32－12 草加
浦和学院 24－12 北本
川口青陵 36－8 秋草学園

▼2回戦
浦和実 34－5 羽生一
八潮 15－13 三郷北
小松原女 24－9 大宮南
川口北 22－7 八潮南
伊奈学園 19－13 熊谷女
上尾東 17－13 埼玉栄
川口青陵 30－8 浦和学院

▼準決勝リーグA組
浦和実 30－10 八潮
浦和実 21－8 小松原女
浦和実 29－11 川口北
小松原女 19－15 八潮
八潮 14－10 川口北
川口北 16－15 小松原女

▼準決勝Bリーグ
伊奈学園 27－18 上尾東
伊奈学園 14－12 浦和南
伊奈学園 19－11 川口青陵
川口青陵 15－9 浦和南
川口青陵 42－12 上尾東
浦和南 17－14 上尾東

▼決勝リーグ
浦和実 32－11 川口青陵
浦和実 25－12 伊奈学園
浦和実 18－13 小松原女
川口青陵 22－13 小松原女
※浦和実－小松原女、伊奈学園－川口青陵は準決勝リーグを適用。
〔順位〕①浦和実②伊奈学園③川

口青陵④小松原女

関東高校千葉予選

（県予選・5月12、13日／東邦大付属東邦高校）

〈男子〉

◎第1ブロック予選

▼予選リーグA

京葉 17－11 拓大紅陵
京葉 18－12 房総学園
拓大紅陵 29－19 房総学園

▼予選リーグB

木更津 19－12 市原
木更津 41－7 鶴舞商
市原 41－14 鶴舞商

▼決勝リーグ

京葉 23－13 市原
拓大紅陵 18－16 木更津
拓大紅陵 19－12 市原
京葉 19－14 木更津

▼順位決定戦

房総学園 23－5 鶴舞商

〔順位〕①京葉②拓大紅陵③木更津④市原⑤房総学園⑥鶴舞商

◎第2ブロック予選

▼リーグ戦

東京学館 26－9 秀明八千代
東京学館 44－2 四街道
東京学館 19－11 佐原
佐原 26－7 四街道
佐原 20－12 秀明八千代
秀明八千代 28－6 四街道

〔順位〕①東京学館②佐原③秀明八千代④四街道

◎第3ブロック予選

▼リーグ戦

生浜 13－9 土気
泉 20－18 千葉南
若松 26－8 生浜
若松 23－10 泉

〔順位〕①若松②泉

◎第4ブロック予選

▼予選リーグA

幕張北 18－12 船橋法典
船橋西 28－9 鎌ヶ谷
幕張北 33－8 鎌ヶ谷
船橋法典 25－24 船橋西
船橋法典 20－4 鎌ヶ谷
船橋西 11－9 幕張北

▼予選リーグB

渋谷幕張 12－11 船橋東
船橋旭 14－10 渋谷幕張
船橋東 15－9 船橋旭

▼代表決定戦

幕張北 16－11 船橋旭
船橋西 13－11 船橋東

▼1位決定戦

船橋西 11－10 幕張北

◎第5ブロック予選

▼リーグ戦

二松沼南 26－9 我孫子
二松沼南 32－4 柏
二松沼南 34－14 県沼南
我孫子 31－8 柏
我孫子 52－4 県沼南
柏 27－9 県沼南

〔順位〕①二松沼南②我孫子③柏④県沼南

◎第6ブロック予選

▼リーグ戦

芝浦工大 22－5 清水
芝浦工大 15－7 柏陵
芝浦工大 16－9 東葛飾
芝浦工大 13－11 柏南
柏南 19－13 東葛飾
柏南 19－6 清水
柏南 19－4 柏陵
東葛飾 15－4 柏陵
東葛飾 20－6 清水
柏陵 16－8 清水

〔順位〕①芝浦工大②柏南③東葛飾④柏陵⑤清水

◎第7ブロック予選

▼予選リーグA

松戸秋山 5－3 市立松戸
専大松戸 9－8 市立松戸
松戸秋山 6－6 専大松戸

▼予選リーグB

小金 12－8 松戸六実
松戸六実 10－4 国府台
小金 12－6 国府台

▼決勝リーグ

松戸秋山 13－10 松戸六実
小金 13－10 専大松戸
小金 25－4 松戸秋山

〔順位〕①小金②松戸秋山

◎第8ブロック予選

▼リーグ戦

市川西 35－18 国分
市川西 36－3 浦安南
国分 32－4 浦安南

〔順位〕①市川西②国分③浦安南

◎県大会

▼1回戦

学館浦安 42－5 松戸秋山
東京学館 25－11 船橋西
若松 34－17 市川西
八千代 29－12 柏南
東邦 39－5 拓大紅陵
京葉 18－13 幕張北
二松沼南 19－16 芝工大柏
市川 33－14 小金

▼2回戦

学館浦安 30－12 東京学館
八千代 22－12 若松
東邦 33－8 京葉
市川 21－9 二松沼南

▼準決勝

学館浦安 16－15 八千代
東邦 19－15 市川

▼3位決定戦

市川 18－11 八千代

▼決勝

東邦 20（12－5、8－5）10 学館浦安

〈女子〉

◎第2ブロック予選

▼リーグ戦

佐原 35－0 四街道
佐原 32－3 四街道
佐原 12－8 佐原女
佐原 11－5 佐原女
佐原女 37－2 四街道
佐原女 39－4 四街道

〔順位〕①佐原②佐原女③四街道

◎第3ブロック予選

▼リーグ戦

泉 9－3 東金女
御宿家政 17－15 生浜
若松 19－2 泉
土気 17－4 御宿家政
若松 12－5 土気

〔順位〕①若松②土気

◎第4ブロック予選

▼リーグ戦
若葉看護 9—7 幕張北
東邦 26—16 幕張北
東邦 11—10 若葉看護
〔順位〕①東邦②若葉看護③幕張北

◎第6ブロック予選
▼リーグ戦
流山中央 22—3 東葛飾
流山中央 35—5 柏陵
流山中央 13—8 東葛飾
流山中央 22—1 柏陵
東葛飾 18—4 柏陵
東葛飾 17—3 柏陵
〔順位〕①流山中央②東葛飾③柏陵

◎第7ブロック予選
▼リーグ戦
松戸秋山 10—2 松戸六実
松戸秋山 14—8 専大松戸
聖徳学園 9—7 松戸六実
松戸秋山 16—4 聖徳学園
聖徳学園 15—6 専大松戸
専大松戸 8—7 松戸六実
〔順位〕①松戸秋山②聖徳学園③専大松戸④松戸六実

◎県大会
▼1回戦
若松 25—8 聖徳
▼2回戦
昭和 38—7 若松
流山中央 21—6 土気
東邦 26—7 松戸秋山
和洋 30—4 佐原
▼準決勝
昭和 24—11 流山中央
和洋 17—12 東邦
▼3位決定戦
東邦 22—19 流山中央
▼決勝
昭和 20（10—4 10—5）9 和洋

群馬県中学校春季大会

（日程場所不明）

〈男子〉
▼1回戦
甘楽二 30—10 相生
下仁田西 24—7 富岡西
藤岡南 11—9 矢中
甘楽三 18—13 藤岡北
南八幡 20—11 下仁田東
▼2回戦
富岡東 19—12 甘楽二
藤岡南 20—18 下仁田西
富岡 23—17 甘楽三
富岡南 34—9 南八幡
▼準決勝
富岡東 20—9 藤岡南
富岡南 25—10 富岡
▼決勝
富岡南 21（10—8 11—3）11 富岡東

〈女子〉
▼1回戦
相生 12—9 塚沢
矢中 22—1 富岡西
富岡 19—9 高南
▼2回戦
富岡南 21—3 相生
富岡 9—7 矢中
▼決勝リーグ
富岡南 12—9 富岡
富岡東 24—9 富岡
富岡東 23—4 富岡南
〔順位〕①富岡東②富岡南③富岡

関東高校大会

（6月2～4日／岩井市総合体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
浦和学院 25—8 前橋
岩井 15—14 小山南
日大明誠 13—10 拓大第一
東京学館浦安 20—18 富岡
桐光学園 23—19 水海道第一
宇都宮北 15—14 甲府第一
日体荏原 19—15 吉井
市川 22—15 日川
浦和実 20—16 法政二
横浜商科大 22—21 川口北
東京 22—16 笠間
▼2回戦
横浜商工 14—13 浦和学院
日大明誠 17—14 岩井
東京学館浦安 20—18 桐光学園
明星 26—16 宇都宮北
日体荏原 18—14 麻生
浦和実 27—18 市川
国学院栃木 16—14 横浜商科大
東邦大付東邦 23—17 東京
▼3回戦
横浜商工 17—9 日大明誠
明星 16—15 東京学館浦安
浦和実 28—15 日体荏原
東邦大付東邦 17—13 国学院栃木
▼準決勝
明星 1[illegible]—14 横浜商工
浦和実 21—13 東邦大付東邦
▼決勝
浦和実 18（10—6 8—8）14 明星

〈女子〉
▼1回戦
東邦大付東邦 24—20 岩井
藤村女 26—5 吉田
栃木女 17—12 川崎北
佼成学園女 11—10 山梨
国学院栃木 27—14 住吉
和洋女大付国府台女 12—11 竜ヶ崎第二
伊奈学園総合 16—10 桐生西
日川 18—12 生田
昭和学院 32—10 聖徳大付聖徳
明倫 23—19 石神井
川口青陵 19—18 吉井
▼2回戦
浦和実 36—8 東邦大付東邦
藤村女 17—16 栃木女
国学院栃木 15—12 佼成学園女
群馬女短付 21—16 和洋女大付国府台女
江東商 27—14 伊奈学園総合
昭和学院 22—12 日川
栃木商 13—12 明倫
水海道第二 27—17 川口青陵
▼3回戦
浦和実 16—4 藤村女
群馬女短付 22—17 国学院栃木
江東商 16—15 昭和学院
水海道第二 15—13 栃木商
▼準決勝
浦和実 19—12 群馬女短付
江東商 21—19 水海道第二

▼決勝
浦和実 17（10－5 7－5）10 江東商

茨城県民総体・国体予選

（6月23、24日／笠間市民体育館）

〈県民総体の部〉

茨城大 29－16 茎崎ク
千代田ク 23－21 グレートディパーズ

▼決勝
茨城大 24（9－10 15－6）16 千代田ク

〈国体予選の部〉

▼1回戦
茨城コンドルズ 48－27 常陽銀行
茨苑ク 26－17 土浦三高ク
笠岡ク 42－14 動燃東海
筑波学園ク 45－12 日本原研

▼準決勝
茨城コンドルズ 33－24 茨苑ク
筑波学園ク 35－10 笠間ク

▼決勝
茨城コンドルズ 28（16－10 12－15）25 筑波学園クラブ

東海

東海高校岐阜県予選

（5月20、26、27日／岐阜南高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
大垣工 22－12 大垣北
各務原西 34－14 大垣東
岐阜東 12－10 岐西工

▼2回戦
市岐阜商 32－8 大垣工
岐陽 16－15 加納
各務原西 21－18 岐阜南
可児 28－27 斐太
県岐阜商 19－17 岐阜東
中京商 27－12 美濃加茂

▼3回戦
市岐阜商 23－9 岐陽
各務原西 23－19 可児
県岐阜商 24－10 中京商

▼決勝リーグ
市岐阜商 23－10 各務原西
市岐阜商 20－11 県岐阜商
県岐阜商 22－15 各務原西
〔順位〕①市岐阜商②県岐阜商③各務原西

〈女子〉

▼1回戦
益田 16－9 岐山
大垣南 18－6 大垣女
斐太 11－7 岐北

▼2回戦
県岐阜商 36－9 益田
加納 18－17 海津
高山 30－7 大垣南
富田女 27－8 瑞浪
養老女 33－6 斐太
可児 10－9 各務原西

▼3回戦
県岐阜商 26－5 加納
高山 16－13 富田女
養老女 27－8 可児

▼決勝リーグ
養老女商 17－15 県岐阜商
養老女商 12－11 高山
高山 14－14 県岐阜商
〔順位〕①養老女商②高山③県岐阜商

三重県高校総体

（6月2～4日／四日市市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
桑名 32－10 四日市中央工
上野工 24－21 津西
四日市四郷 25－10 川越
四日市西 20－16 津
桑名西 21－12 高田
桑名北 18－7 海星
四日市 27－13 津工
尾鷲 18－12 名張西
四日市南 21－15 津東

▼2回戦
四日市工 29－14 桑名
四日市四郷 24－10 上野工
桑名工 17－15 四日市西
桑名西 10－9 桑名北
亀山 20－11 四日市
四日市南 18－10 尾鷲

▼3回戦
四日市工 35－7 四日市四郷
桑名工 19－11 桑名西
亀山 15－12 四日市南

▼決勝リーグ
四日市工 23－9 亀山
亀山 7－6 桑名工
四日市工 21－12 桑名工
〔順位〕①四日市工②亀山③桑名工

〈女子〉

▼1回戦
桑名 9－7 桑名西
名張西 12－11 上野
尾鷲 14－11 川越

▼2回戦
暁 23－4 桑名
四日市商 23－7 四日市
津東 21－8 名張西
津 15－8 松阪女
四日市南 31－9 尾鷲
四日市西 32－4 亀山

▼3回戦
暁 19－7 四日市商
津東 36－3 津
四日市南 22－6 四日市西

▼決勝リーグ
暁 22－3 四日市南
津東 14－11 四日市南
暁 29－7 津東
〔順位〕①暁②津東③四日市南

第37回東海高校

（6月23、24日／豊田市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
岡崎城西 27－19 県岐阜商
四日市工 26－8 星陵
市岐阜商 26－9 亀山
桜台 22－14 清水東

▼準決勝
岡崎城西 24－17 四日市工
市岐阜商 20－17 桜台

▼決勝
市岐阜商 20（10－6 10－9）15 岡崎城西

〈女子〉▼1回戦
名短付 20－12 清水商
養老女商 19－11 津東
静岡城北 18－12 高山
東海女 16－10 暁
▼準決勝
名短付 27－13 養老女商
東海女 19－17 静岡城北
▼決勝
名短付 14（7－7、4－5）9 東海女

北信越

長野県高校総体
（6月2、3日／更埴市民体育館ほか）

〈男子〉▼1回戦
中野 25－9 上田千曲
▼2回戦
屋代 40－10 中野
野沢北 23－10 松本第一
小諸 37－11 北部
田川 33－6 北佐久農
上田 35－11 松川
松本美須々ヶ丘 30－13 長野東
野沢南 20－18 諏訪清陵
坂城 41－4 臼田
▼3回戦
屋代 32－18 野沢北
小諸 19－15 田川
上田 29－17 松本美須々ヶ丘
坂城 27－17 野沢南
▼準決勝
屋代 32－9 小諸
坂城 21－15 上田
▼決勝
屋代 29（12－10、17－9）19 坂城

〈女子〉▼1回戦
松本美須々ヶ丘 29－5 更級農
北佐久農 13－4 上田千曲
小諸商 32－4 小海
臼田 25－7 松本蟻ヶ崎
▼2回戦
佐久 34－10 松本美須々ヶ丘
田川 34－8 北佐久農
塩尻 27－17 小諸商
屋代 31－8 臼田
▼準決勝
佐久 36－5 田川
屋代 22－18 塩尻
▼決勝
佐久 19（7－8、12－6）14 屋代

第26回北信越高校選手権
（6月15～17日／更埴市民体育館ほか）

〈男子〉▼1回戦
高岡向陵 34－11 小諸
金沢市工 26－17 金津
屋代 23－7 高志
氷見 23－18 柏崎
北陸 24－14 小松工
坂城 31－25 長岡大手
高岡商 21－20 新潟江南
小松明峰 24－13 上田
▼2回戦
金沢市工 25－22 高岡向陵
屋代 29－24 氷見
北陸 32－9 坂城
小松明峰 19－17 高岡商
▼準決勝
金沢市工 29－19 屋代
小松明峰 21－16 北陸
▼決勝
金沢市工 27（14－12、13－8）20 小松明峰

〈女子〉▼1回戦
小松商 37－9 塩尻
富山女 18－16 伝愛女
新潟江南 23－16 羽水
佐久 26－14 氷見
金沢商 17－11 福井商
長岡大手 15－13 田川
小松市女 33－7 屋代
小杉 51－2 巻
▼2回戦
小松商 29－8 富山女
佐久 35－19 新潟江南
金沢商 31－6 長岡大手
小松市女 29－16 小杉
▼準決勝
小松商 24－13 佐久
小松市女 24－7 金沢商
▼決勝
小松市女 14（8－4、6－2）6 小松商

近畿

和歌山春季選手権大会
（4月29、30日／和歌山商高、岩出町体育館）

〈一般男子〉▼Aリーグ
市和商ク 26－20 和高専
和高専 27－25 住友金属
住友金属 19－17 市和商ク
▼Bリーグ
県和商ク 27－27 白馬ク
白馬ク 29－16 桐蔭ク
県和商ク 33－22 桐蔭ク
▼Cリーグ
御坊ク 36－8 和医大
那賀ク 34－14 和医大
那賀ク 21－16 御坊ク
▼決勝リーグ
市和商ク 19－12 県和商ク
那賀ク 21－20 県和商ク
那賀ク 23－16 御坊ク
〔順位〕①那賀クラブ②市和商クラブ③御坊クラブ

〈高校男子〉▼1回戦
那賀 42－8 海南
耐久 22－9 県和商
箕島 29－27 新宮
御坊商工 24－8 和歌山東
桐蔭 17－13 市和商
近大付和歌山 35－18 笠田

紀北農芸 23－12 粉河
貴志川 26－22 新宮商

▼2回戦
那賀 27－13 耐久
御坊商工 32－25 箕島
近大付和歌山 22－19 桐蔭
貴志川 25－14 紀北農芸

▼準決勝
那賀 33－16 御坊商工
貴志川 30－16 近大付和歌山

▼決勝
那賀 33（14－5、19－8）13 貴志川

〈高校女子〉

▼1回戦
貴志川 24－6 新宮

▼2回戦
那賀 21－9 県和商
粉河 18－7 笠田
海南 14－7 御坊商工
箕島 19－12 貴志川

▼準決勝
那賀 17－9 粉河
海南 8－7 箕島

▼決勝
那賀 20（11－3、9－6）9 海南

〈中学男子〉

▼1回戦
那賀 14－5 打田
岩出第二 21－13 有功
湯浅 18－9 近大付和歌山

▼2回戦
岩出 35－5 金屋
紀伊 14－13 那賀
白馬 30－10 岩出第二
貴志川 37－4 湯浅

▼準決勝
岩出 22－5 紀伊
白馬 25－14 貴志川

▼決勝
白馬 14（6－9、8－3）12 岩出

〈中学女子〉

▼予選リーグAゾーン
岩出 23－3 打田
岩出 17－9 粉河
粉河 16－9 打田

▼同Bゾーン1回戦
貴志川 23－3 那賀
岩出第二 16－11 桃山

▼Bゾーン決勝
貴志川 8－7 岩出第二

▼決勝トーナメント1回戦
岩出 11－5 岩出第二
貴志川 12－10 粉河

▼決勝
岩出 12（6－3、6－1）4 貴志川

近畿高校奈良県予選

（4月28～5月3日／生駒市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
東大寺 12－5 斑鳩
橿原 19－10 広陵
畝傍 15－8 奈良工
信貴ヶ丘 25－9 一条

▼2回戦
正強 13－4 東大寺
片桐 20－6 高円
富雄 15－9 高田東
奈良 17－5 信貴ヶ丘
生駒 19－18 橿原
郡山 20－9 天理
上牧 17－7 桜井商
添上 26－8 畝傍

▼3回戦
正強 25－8 片桐
奈良 16－10 富雄
生駒 19－18 郡山
添上 30－9 上牧

▼準決勝
正強 19－13 奈良
添上 18－7 生駒

▼3位決定戦
奈良 14－9 生駒

▼決勝
正強 15（7－5、8－8）13 添上

〈女子〉

▼1回戦
一条 11－1 桜井商
添上 26－9 白藤

▼2回戦
富雄 11－4 一条
生駒 12－4 片桐
短大付 19－6 橿原
添上 18－0 郡山

▼準決勝
生駒 9－5 富雄
添上 12－1 短大付

▼決勝
添上 10（6－4、4－3）7 生駒

滋賀県高校春季大会

（5月17～19日／彦根商高、彦根西高）

〈男子〉

▼予選リーグAゾーン
彦根東 33－5 能登川
彦根西 23－14 能登川
彦根東 22－12 彦根西

▼同Bゾーン
安曇川 13－12 彦根工
長浜北 21－8 高島
彦根工 13－10 高島
長浜北 16－6 安曇川
安曇川 20－12 高島
長浜北 23－12 彦根工

▼同Cゾーン
八幡工 19－8 比叡山
米原 16－10 比叡山
八幡工 22－5 米原

▼同Dゾーン
河瀬 14－7 近江
野洲 35－11 近江
野洲 24－10 河瀬

▼決勝トーナメント1回戦
彦根東 42－6 米原
長浜北 27－9 河瀬
八幡工 28－11 彦根西
野洲 26－12 安曇川

▼準決勝
長浜北 20－19 彦根東
野洲 18－16 八幡工

▼3位決定戦
彦根東 27－25 八幡工

▼決勝

長浜北 26（10-10, 11-11, 1-2, 4-0）23 野洲

〈女子〉

▼予選リーグAゾーン
彦根商 20-3 安曇川

▼同Bゾーン
米原 17-3 大津商
高島 20-2 大津商
高島 14-10 米原

▼同Cゾーン
河瀬 10-2 八幡商
彦根西 16-10 八幡商
河瀬 8-8 彦根西

▼同Dゾーン
守山女 8-5 能登川
彦根東 18-1 能登川
彦根東 17-10 守山女

▼決勝トーナメント1回戦
彦根商 38-4 彦根西
高島 21-10 守山女
河瀬 9-9 安曇川（2PTC1）

▼準決勝
彦根東 24-11 米原
彦根商 25-4 高島
彦根東 14-9 河瀬

▼3位決定戦
高島 18-7 河瀬

▼決勝
彦根商 33（16-2, 17-2）4 彦根東

滋賀県春季社会人大会
（5月20日／野洲高）

▼1回戦
京セラ 28-21 守山ク

▼準決勝
高島ク 12-0 芦汀会
八幡ク 31-18 京セラ

▼決勝
高島ク 24-16 八幡ク

京都府高校
（6月2～24日／伏見港体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
桃山 16-11 塔南
伏見工 19-15 京都学園
洛東 25-8 宇治
洛北 29-5 木津
大谷 25-8 日吉丘
西宇治 41-2 洛陽工

▼2回戦
桂 36-13 桃山
嵯峨野 25-15 同志社
平安 22-15 両洋
北嵯峨 23-12 伏見工
城南 34-4 南八幡
城陽 26-9 成章
山城 14-8 久御山
京都西 31-8 洛東
東宇治 21-20 洛北
東稜 18-13 洛星
堀川 11-9 田辺
乙訓 16-11 洛水
大谷 16-15 東山
向陽 13-8 西乙訓
北稜 13-11 鴨沂
洛西 20-6 西宇治

▼3回戦
桂 29-11 嵯峨野
北嵯峨 17-13 平安
城南 29-7 城陽
京都西 21-10 山城
東宇治 30-10 東稜
乙訓 20-12 堀川
大谷 23-21 向陽
洛西 37-0 北稜

▼4回戦
桂 28-6 北嵯峨
京都西 17-13 城南
東宇治 19-11 乙訓
洛西 23-16 大谷

▼準決勝
桂 21-17 京都西
洛西 18-13 東宇治

▼3位決定戦
東宇治 21-17 京都西

▼決勝
洛西 20（9-4, 6-11, 1-2, 1-0, 2-0, 1-2）19 桂

〈女子〉

▼1回戦
洛北 31-4 西乙訓
田辺 12-9 洛東
西宇治 27-7 北稜
向陽 28-7 塔南
乙訓 6-3 鴨沂
桂 23-3 城南
京都女 33-2 西京商
北嵯峨 18-11 明徳商
洛西 23-7 日吉丘
山城 12-10 桃山
西山 27-7 久御山
南八幡 14-5 府立商
洛水 38-9 城陽

▼2回戦
洛北 8-7 東宇治
西宇治 20-1 田辺
向陽 20-4 乙訓
桂 11-10 精華
京都女 26-3 北嵯峨
洛西 13-6 山城
西山 13-12 南八幡
東稜 16-14 洛水

▼3回戦
洛北 16-5 西宇治
向陽 11-10 桂
京都女 21-5 洛西
東稜 23-10 西山

▼準決勝
洛北 10-4 向陽
東稜 16-9 京都女

▼3位決定戦
向陽 13-11 京都女

▼決勝
東稜 13（5-3, 6-8, 1-0, 0-1, 0-1, 1-0）13 洛北（2PTC1）

全国高校総体滋賀県予選
（6月17日／彦根東高）

〈男子〉

▼準決勝
長浜北 14－10 八幡工
彦根東 23－17 野洲
▼決勝
彦根東 21（12－5、9－9）14 長浜北
〈女子〉
▼準決勝
彦根商 32－0 河瀬
高島 14－6 彦根東
▼決勝
彦根商 32（15－3、17－0）3 高島

中国

中国高校山口県予選

（4月15、16日／徳山市体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
下松 21－5 下関第一
下関西 24－6 広瀬
徳山商 24－10 防府西
野田学園 15－14 南陽工
徳山工 26－24 西京
徳山 18－14 山口
下関中央工 18－12 小野田工
防府商 17－15 下関二
▼2回戦
下松工 29－8 下松
下関西 20－17 華陵
徳山商 22－15 岩陽
高水 47－4 野田学園
岩国工 27－7 徳山工
徳山 棄権 田部
下関中央工 18－15 宇部工
岩国 23－4 防府商
▼3回戦
下松工 46－5 下関西
高水 12－10 徳山商
岩国工 16－14 徳山
岩国 12－9 下関中央工
▼準決勝
下松工 21－8 高水
岩国 15－14 岩国工
▼3位決定戦
高水 19－15 岩国工
▼決勝
下松工 20（11－6、9－2）8 岩国

〈女子〉
▼1回戦
華陵 25－2 防府商
徳山 24－2 田部
高水 22－8 西京
熊毛北 31－1 防府西
徳山商 37－9 響
岩陽 16－12 長府
岩国 31－5 山口中央
岩国商 37－2 徳山工
▼2回戦
華陵 24－8 徳山
熊毛北 19－15 高水
徳山商 27－11 岩陽
岩国商 21－16 岩国
▼準決勝
華陵 15－7 熊毛北
徳山商 20－14 岩国商
▼3位決定戦
岩国商 14－10 熊毛北
▼決勝
華陵 20（9－9、11－6）15 徳山商

第41回中国高校選手権

（5月11～13日／島根県浜田市、江津市）

〈男子〉
▼1回戦
下松工（山口）25－4 呉昭和（広島）
境港工（鳥取）23－14 松江工（島根）
高水（山口）17－14 東岡山工（岡山）
呉港（山口）29－1 浜田水産（島根）
倉敷南（岡山）18－11 江津（島根）
境（鳥取）23－16 呉工（広島）
総社（岡山）12－11 米子東（鳥取）
岩国（山口）29－14 松江東（島根）
▼2回戦
下松工 25－7 境港工
高水 25－13 呉港
境 15－12 倉敷南
岩国 28－14 総社
▼準決勝
下松工 27－7 高水
岩国 19－13 境
▼決勝
下松工 19（11－5、8－6）11 岩国

〈女子〉
▼1回戦
山陽女（広島）23－4 米子北（鳥取）
玉野（岡山）20－14 江津（島根）
米子東（鳥取）18－6 松江第一（島根）
徳山商（山口）20－7 西大寺（岡山）
岩国商（山口）27－7 松江市女（島根）
呉豊栄（広島）17－13 松江南（島根）
華陵（山口）24－3 総社（岡山）
▼2回戦
山陽 26－10 玉野
徳山商 23－10 米子東
境 17－16 岩国商
華陵 40－7 松江南
▼準決勝
山陽 16－14 徳山商
華陵 21－5 境
▼決勝
華陵 24（14－2、10－7）9 山陽

山口県中学校春季大会

（5月20、21日／周陽中グランド）

■東部地区
〈男子〉
▼1回戦
熊毛 12－9 桜田
通津 14－9 須金
美川 16－13 鴻南
▼2回戦
下松 20－10 熊毛
平田 15－8 岐陽
末武 21－1 天尾

河内 29－13 周陽
深浦 27－12 通津
柱野 23－10 太津
北河内 23－9 大畠
住吉 25－9 美川

▼3回戦
下松 18－10 平田
河内 24－18 末武
深浦 21－10 柱野
住吉 26－11 北河内

▼準決勝
下松 15－11 河内
住吉 22－9 深浦

▼決勝
住吉 21（12－7、9－3）10 下松

〈女子〉

▼1回戦
太華 11－9 平田
河内 14－5 周陽
岐陽 10－6 岩国
下松 21－2 熊毛
天尾 15－4 秋月

▼2回戦
末武 19－3 太華
岐陽 12－5 河内
下松 11－6 玖珂
住吉 20－6 天尾

▼準決勝
末武 12－7 岐陽
下松 12－1 住吉

▼決勝
下松 10（5－2、5－7）9 末武

■西部地区

〈男子〉

▼1回戦
菊川 14－11 竜王

▼2回戦
東部 19－7 菊川
小野田 13－11 玄洋
高千帆 25－11 文洋
日新 23－14 萩第一

▼準決勝
東部 17－6 小野田
日新 22－10 高千帆

▼決勝
東部 9（5－3、4－3）9 日新

第35回（女子18回）中国大会

（5月25～27日／境港市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
日新製鋼（広島） 29－8 岡山大（岡山）
徳山曹達（山口） 29－17 朝酌ク（島根）
下松ク（山口） 28－12 鳥取大（鳥取）
岡山教員（岡山） 29－17 江津ク（島根）
下関ク（山口） 38－10 松江工ク（島根）
境港ク（鳥取） 27－17 自衛隊呉（広島）
倉吉ク（島根） 17－13 白桃ク（岡山）
山口県教員団（山口） 21－14 マツダ（広島）

▼2回戦
日新製鋼 42－15 徳山曹達
下松ク 23－22 岡山教員
下関ク 33－20 境港ク
山口県教員団 36－22 倉吉ク

▼準決勝
日新製鋼 31－12 岡山教員
山口県教員団 25－18 下関ク

▼決勝
日新製鋼 37（21－6、16－9）15 山口県教員団

〈女子〉

▼1回戦
山口ク（山口） 22－11 松江ク（島根）
虹の会（岡山） 17－5 境港ク（鳥取）

▼2回戦
広島ク（広島） 29－13 山口ク
徳山ク（山口） 24－28 虹の会

▼決勝
徳山ク 22（8－8、14－6）14 広島ク

山口県高校総体

（6月2～4日／岩国商高ほか）

〈男子〉

▼1回戦
徳山工 20－14 防府西
山口 24－23 下松
守部工 28－12 西京
徳山商 26－12 防府商
華陵 26－9 広瀬
徳山 26－14 田部
小野田工 28－12 野田学園
南陽工 19－7 早鞆
岩陽 26－12 下関工

▼2回戦
下松工 33－4 徳山工
山口 17－14 宇部工
下関中央工 15－11 徳山商
岩国工 30－8 華陵
高水 19－13 徳山
小野田工 15－11 下関第一
下関西 34－17 南陽工
岩国 21－15 岩陽

▼3回戦
下松工 34－7 山口
岩国工 15－12 下関中央工
高水 11－9 小野田工
岩国 31－17 下関西

▼準決勝
下松工 20－11 岩国工
岩国 18－17 高水

▼決勝
下松工 18（9－3、9－6）9 岩国

〈女子〉

▼1回戦
華陵 44－5 響
山口中央 24－13 徳山工
高水 17－8 徳山
熊毛北 29－8 防府商
岩国商 36－4 防府西
岩陽 19－13 西京
岩国 18－15 長府
徳山商 20－4 田部

▼2回戦
華陵 43－6 山口中央
熊毛北 14－14 高水（3PTC2）
岩国商 20－15 岩陽
徳山商 24－14 岩国

▼準決勝

- 華陵 18－13 熊毛北
- 岩国商 16－12 徳山商

▼決勝

- 華陵 20（11－6、9－5）11 岩国商

第29回岡山県高校総体

（6月3、10、11日／西大寺高校グランド）

〈男子〉

▼1回戦

- 津山工 12－5 操山
- 津山 12－0 和気閑谷
- 光南 19－7 高梁工
- 倉敷商 19－10 朝日
- 西大寺 10－7 邑久
- 芳泉 15－10 落合
- 理大附 15－7 青陵
- 備前東 12－5 一宮
- 古城池 19－2 大安寺

▼2回戦

- 津山 23－2 津山工
- 光南 19－8 関西
- 倉敷商 21－6 高松農
- 岡山工 14－2 西大寺
- 玉野 16－6 芳泉
- 理大附 18－9 矢掛
- 吉備 17－14 備前東
- 古城池 16－9 金川

▼3回戦

- 東岡山工 22－4 津山
- 光南 12－11 水島工
- 倉敷商 10－9 天城
- 倉敷工 11－9 岡山工
- 玉野 17－15 倉敷南
- 総社南 17－8 理大附
- 児島 12－8 吉備
- 総社 17－9 古城池

▼4回戦

- 東岡山工 17－12 光南
- 倉敷工 23－7 倉敷商
- 総社南 18－13 玉野
- 総社 11－8 児島

▼準決勝

- 東岡山工 17－15 倉敷工
- 総社 8－6 総社南

▼決勝

- 東岡山工 21（13－4、8－4）8 総社

〈女子〉

▼1回戦

- 朝日 7－4 古城池
- 真備 8－6 青陵
- 落合 12－6 芳泉

▼2回戦

- 操山 11－9 至道
- 児島 16－3 総社南
- 矢掛 13－10 朝日
- 真備 21－7 津山
- 倉敷商 16－6 落合
- 倉敷中央 9－8 津山商
- 倉敷南 9－3 一宮
- 天城 19－2 金川

▼3回戦

- 児島 17－3 操山
- 矢掛 8－1 大安寺
- 玉野光南 19－9 真備
- 総社 10－5 倉敷商
- 倉敷中央 13－8 備前東
- 倉敷南 10－10 天城（3PTC2）

▼4回戦

- 西大寺 24－8 児島
- 玉野光南 22－6 矢掛
- 総社 21－13 倉敷中央
- 玉野 16－5 倉敷南

▼準決勝

- 玉野光南 12－11 西大寺
- 総社 16－11 玉野

▼決勝

- 玉野光南 21（11－4、10－9）13 総社

九州

九州高校福岡県予選

（4月29、30日／久留米工大附高、久留米工大）

〈男子〉

▼1回戦

- 久工大附 26－6 武蔵台
- 西陵 25－9 門司
- 春日 26－16 三池
- 香椎 11－10 若松
- 福岡 27－6 太宰府
- 泰星 15－14 小倉西
- 博多工 38－9 日新館
- 九州産 30－4 筑紫丘

▼2回戦

- 久工大附 30－7 西陵
- 春日 24－21 香椎
- 福岡 24－9 泰星
- 九州産 18－7 博多工

▼準決勝

- 久工大附 40－11 春日
- 九州産 26－17 福岡

▼3位決定戦

- 福岡 26－12 春日

▼決勝

- 久工大附 29（14－8、15－4）12 九州産

〈女子〉

▼1回戦

- 春日 18－5 福岡南女
- 筑紫女 33－2 須恵
- 小倉商 18－14 浮羽

▼2回戦

- 新宮 20－7 武蔵台
- 九州女 33－3 春日
- 筑紫女 13－11 福岡
- 三井 13－5 小倉商

▼準決勝

- 九州女 15－6 新宮
- 筑紫女 17－9 三井

▼3位決定戦

- 三井 23－20 新宮

▼決勝

- 九州女 17（9－7、8－9）16 筑紫女

第19回鹿児島中学校春季大会

（5月26、27日／ソニー国分体育館）

〈男子一部〉

▼予選リーグ

- 鹿大附A 13－9 谷山
- 鹿大附A 17－3 重富A
- 谷山 11－6 重富A
- 国分 15－7 東谷山
- 伊敷A 15－5 国分
- 重富A 18－6 東谷山

▼決勝トーナメント準決勝

- 鹿大附A 14－6 国分

伊敷A 12－5 谷山

▼決勝

鹿大附A 18（9－6、9－5）11 伊敷A

〈男子2部〉

▼リーグ戦

鹿大附B 23－4 伊敷B

鹿大附B 10－7 重富B

重富B 10－8 伊敷B

〔順位〕①鹿大附B②重富B③伊敷B

〈女子〉

▼予選リーグ

伊敷A 22－6 鹿大附

伊敷A 20－6 谷山

鹿大附 11－8 谷山

東谷山 10－3 伊敷B

東谷山 8－7 重富

重富 12－4 伊敷B

▼決勝トーナメント準決勝

伊敷A 15－6 重富

東谷山 9－6 鹿大附

▼決勝

伊敷A 14（6－2、8－2）4 東谷山

第44回宮崎県民体育大会

（5月26、27日／宮崎西高）

〈男子〉

▼1回戦

南那珂郡 18－14 西諸県郡

東臼杵郡 23－14 小林市

宮崎郡 18－13 北諸県郡

▼2回戦

都城市 29－9 南那珂郡

延岡市 27－14 児湯郡

東臼杵郡 23－17 西都市

宮崎市 28－8 宮崎郡

▼準決勝

都城市 23－21 延岡市

宮崎市 26－16 東臼杵郡

▼決勝

都城市 18（5－9、13－8）17 宮崎市

〈女子〉

▼1回戦

宮崎市 14－3 都城市

延岡市 6－5 小林市

▼決勝

宮崎市 16（7－1、9－6）7 延岡市

'91広島

アジアハンドボール選手権大会を成功させよう!!

—第6回男子・第3回女子アジアハンドボール選手権大会
兼バルセロナオリンピックアジア地区予選—

〔日程〕　一九九一年八月二十二日㈭〜九月一日㈰

〔大会会場〕　広島サンプラザ・広島市東区スポーツセンター

㈶日本ハンドボール協会
広島県ハンドボール協会

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九九号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成二年六月二十六日　印刷
平成二年七月一日　発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表（481）二三六一
振替　東京　六－五八三四八番
編集兼発行人　安藤純光
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）